

2018 若者が受け入れる日本近代文学

An Editorial Design of Japanese Modern Literature

AD19 佐藤 美乃里
指導教員 菅原 由佳

1. 研究目的

国際化が進み、様々な人々と関わりを持つ中で、日本人は自国の文化を再認識する機会が必要であると考えた。日本近代文学には外国にはない日本ならではの表現が存在する。それを読むことで現代の若者に日本人としての文化を感じてほしいと考えた。そのために若者が近代文学に触れる機会が多くなることを目指し、若者が読み始める最初のステップとなるような本作りを目指すことにした。

2. 調査と分析

若者10名（平均20歳）に日本近代文学を読まない理由を聞いたところ、以下の点が挙げられた。

- (1) 作品の言い回しが古くて理解しづらい。分からない文字を調べるのがめんどくさい。→言葉が難しく理解できない。
- (2) 国語の授業で習った時につまらなかった。→面白さを理解できない。
- (3) 本の表紙が手に取る気にさせない。→つまらなそうに見える。

このことから若者が近代文学を好まない傾向にあることが分かった。

若者10名に、知っている日本近代文学作家を聞いたところ、芥川龍之介が大多数を占めた。そこで、その作者の読みやすい作品の「藪の中」を採用し、上記のことをふまえ、日本近代文学の本の編集デザインと装丁を行うことにした。

3. コンセプトの立案

「想像しながら楽しめる」

物語のイメージを膨らませながら近代文学に触れてもらえる、書籍のデザインへ発展させる表現を試みた。

4. デザイン展開

「藪の中」という作品は、殺人事件に対して検非違使（現代の警察または刑事）が目撃者や関係者の話を聞く物語で、想像力をかき立てる作品である。

想像するためのアイディアとして、語り手を目次で分け、この内容のイメージを膨らませやすいように語り手ごとに扉絵（人の顔、図2）を配置

し、人が話している様子を強調した。

また本の中にある難しい言葉の意味を説明する欄を設けた。

さらにあるWebサイト^{*1}の調査によると、若者は表紙にイラストが入っているものほど手に取りやすいいわゆる「ジャケ買い」傾向があることが分かった。そこで、表紙を若者が手に取りやすいものにした。

現代の若者は横組みの文字に慣れ親しんでいるためか、縦組みよりも横組みが読みやすいという人が多く存在することがわかった。しかし、そこはあえて縦組みを採用し、日本文ならではのものとするなどの工夫をした。

5. 完成図



図1 表紙



図2 扉絵

6. 結論

若者10名にデザインした本を読んでもらったところ、読みやすく面白いと答えてくれた。若者に日本近代文学を読ませるきっかけになる本作りとしては、親しみを持っていただけただけで、問題を解決したからこそ、興味を引くことができ、知識を与えることができたと思う。また、若者が内容を理解できたことで、読む楽しさを感じることができ、イメージを膨らませながら読み進めることができたようだった。

7. 参考文献

※1 ブックスプラス制作日記

「人気漫画家が近代文学の表紙を飾る！」

<http://blog.ad-manga.com/pub/?p=1154>

・毎日新聞、読書世論調査・学校読書調査 2008年版

・総合図書大目録、

<http://www.sogotosho.daimokuroku>.

・気になるデザイン2本文横組みの小説が読めないなんて、おばさんの証拠でしょうか（泣）、津田淳子

<http://biog.dgcr.com/mt/dgcr/archives/20071127140500.html>